

参加無料 ※入館料別  
予約制

JT生命誌研究館

研究員  
の  
研究室

生命科学に興味を持つ、  
全ての人のために。



詳細は  
こちら



会場

たばこと塩の博物館  
〒130-0003 東京都墨田区横川1-16-3

日時

2023 6/3(土), 4(日), 10(土), 11(日)

開館時間 | 10:00-17:00  
休館日 | 月曜日  
入館料 | 大人・大学生100円  
小・中・高校生50円

[主催] JT生命誌研究館 〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1  
[お問い合わせ] TEL:072-681-9750 受付時間:火・土 10:00-16:30

生きものの不思議をたのしむ





# JT生命誌研究館の研究が勢揃い!

▶開始時間(各1時間)  
①11:00 ②13:30 ③15:00

## 6/3 (土)

予約ページ



- ①③ 【イチジクとイチジクコバチの持ちつ持たれつの関係】
- ② 【歩く宝石・オサムシはなぜ、どうやって飛ぶことをやめたのか?】

昆虫の祖先は海から陸上に進出し、翅を獲得して大繁栄を果たしました。植物との相互作用はその繁栄を促進しています。最も典型的なのはイチジク植物とイチジクコバチの「1種対1種」の絶対共生関係です。一方、昆虫にはせっかく獲得した翅を無くすような後翅の退化的進化オサムシのような虫もいます。



蘇 智慧

系統進化研究室

昆虫類の系統進化(時間)と植物との共生関係(空間)から生物の進化と種分化を理解する研究を行っています。



尾崎 克久

昆虫食性進化研究室

昆虫と植物が強固な絆で結びついていることについては、100年以上前から続く“不思議”です。この謎に現代の技術で挑戦します。

## 6/4 (日)

予約ページ



- ①
- ② 【アゲハチョウに教わる昆虫と植物のかけひき】
- ③

アゲハチョウの幼虫は、決まった植物だけを食べます。食草ではない植物は食べることができません。植物は根をはっているので、食べられそうになったときに逃げることができません。それぞれに事情がありますが、どのようなかけひきの中で生きているのでしょうか。

## 6/10 (土)

予約ページ



- ①
- ② 【節足動物繁栄の原点をクモの研究から探る】
- ③

昆虫やクモを含む節足動物は地球上のあらゆる環境に適応し、種によって多様な生態を獲得しています。節足動物の多様性の基盤が如何にして築かれたのか、卵の中の細胞が織りなす体づくりの研究をもとに考えます。身近なクモが教えてくれる太古の生きものの世界を感じていただきたいです。



小田 広樹

細胞・発生・進化研究室

研究では冷静に考えてというより、夢中になって行動するタイプ。そんな中で出会ったクモ。日々の戒め、考えすぎて先入観を持つことがないように。



橋本 主税

形態形成研究室

生化学に近い分子生物学をやっていたことの反動からか、遺伝子や分子機構よりは現象の方に興味を持って研究を進めています。

## 6/11 (日)

予約ページ



- ① 【かたちとは何か—科学哲学】
- ② 【脊索動物の形づくり】
- ③ 【細胞周期と細胞分化—脊椎動物はどのように出現したのか?】

①論理的な考え方とは?②あたらしい原腸形成モデルから見てきた脊索動物の形づくりに潜む共通性とは?③細胞が分化するかしないかはどのように決まるのか?このような疑問に対し講演では様々な視点から生きものの現象について話します。